

Mailing No. 333925

Reference No. PCB15471HT

Mailing Date: September 6, 2005

Patent Application No. 2000-227413

Cited Reference(s)

D1: Japanese Laid-Open Patent Publication No. 2000-268843

D2: Japanese Laid-Open Patent Publication No. 2000-251902

Examiner's Statement

Claims 1 and 4 are rejected in view of reference D1 for lack of novelty.

Claims 1 and 4 are rejected in view of reference D2 for lack of novelty.

Prior Art made of record

Searched Field:

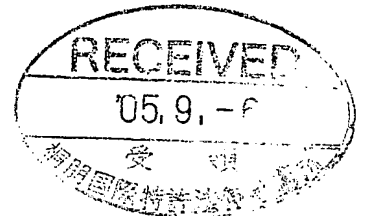
IPC 7                      H01M8/00-24

Reference(s):

D3: Japanese Laid-Open Patent Publication No. 2001-506399  
(PCT Application)

D4: Japanese Laid-Open Patent Publication No. 11-185778

## 拒絶理由通知書



特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 2 2 7 4 1 3
起案日	平成 1 7 年 9 月 2 日
特許庁審査官	高木 康晴 3 3 4 8 4 X 0 0
特許出願人代理人	千葉 剛宏 (外 1 名) 様
適用条文	第 2 9 条 の 2

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

### 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同一ではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないので、特許法第 2 9 条の 2 の規定により、特許を受けることができない。

### 記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1 及び 4
- ・引用文献等 1
- ・備考

他人の先願に係る引用文献等 1 の出願当初の明細書、図面に記載された発明（以下、「引用文献等 1 記載の発明」と称する。引用文献等 1 【0 0 0 2】、【0 0 1 6】～【0 0 2 6】及び【図 1】～【図 2】等参照）には、「固体高分子電解質膜を燃料電極と酸化剤電極とで挟んで構成される単セルが、セパレータを介して水平方向に複数個積層された燃料電池積層体 4 0 であって、前記単セルは、横長の長方形状に構成されるとともに、前記燃料電池積層体 4 0 内には、横方向両端上下に位置してそれぞれ燃料および空気を各単セルに供給するための燃料供給口 2 6、燃料排出口 2 7 および空気供給口 2 4、空気排出口 2 5 が設けられている燃料電池積層体 4 0」が記載されている。

そして、引用文献等 1 記載の発明の「燃料電極」、「酸化剤電極」、「単セル」、「燃料電池積層体 4 0」、「燃料」、「空気」、「燃料供給口 2 6、燃料排出口 2 7」及び「空気供給口 2 4、空気排出口 2 5」は、それぞれ本願請求項 1 に係る発明の「アノード側電極」、「カソード側電極」、「単位燃料電池セル」

、「燃料電池スタック」、「燃料ガス」、「酸化剤ガス」、「燃料ガス給排路」及び「酸化剤ガス給排路」に相当する。

したがって、本願請求項 1 に係る発明は、引用文献等 1 記載の発明と同一である。

また、引用文献等 1 の【図 1】の記載から、引用文献等 1 記載の発明の「燃料供給口 2 6、燃料排出口 2 7、空気供給口 2 4 及び空気排出口 2 5」は縦長の長方形形状であると認められる。

したがって、本願請求項 4 に係る発明は、引用文献等 1 記載の発明と同一である。

- ・請求項 1 及び 4
- ・引用文献等 2
- ・備考

他人の先願に係る引用文献等 2 の出願当初の明細書、図面に記載された発明（以下、「引用文献等 2 記載の発明」と称する。引用文献等 2 【0 0 2 8】～【0 0 4 2】、【図 1】、【図 2】及び【図 4】～【図 5】等参照）には、「電解質膜 3 1 をアノード 3 3 とカソード 3 2 とで挟んで構成される単位セル 2 0 が、セパレータ 3 0 を介して水平方向に複数個積層されたスタック構造 1 5 であって、前記単位セル 2 0 は、横長の長方形形状に構成されるとともに、前記スタック構造 1 5 内には、横方向両端上下に位置してそれぞれ燃料ガスおよび酸化ガスを各単位セル 2 0 に供給するための燃料ガス供給マニホールド 6 4、6 6、燃料ガス排出マニホールド 6 5、6 7 および酸化ガス供給マニホールド 6 0、6 2、酸化剤ガス排出マニホールド 6 1、6 3 が設けられているスタック構造 1 5」が記載されている。

そして、引用文献等 2 記載の発明の「電解質膜 3 1」、「アノード 3 3」、「カソード 3 2」、「単位セル 2 0」、「スタック構造 1 5」、「酸化ガス」、「燃料ガス供給マニホールド 6 4、6 6、燃料ガス排出マニホールド 6 5、6 7」及び「酸化ガス供給マニホールド 6 0、6 2、酸化剤ガス排出マニホールド 6 1、6 3」は、それぞれ本願請求項 1 に係る発明の「固体高分子電解質膜」、「アノード側電極」、「カソード側電極」、「単位燃料電池セル」、「燃料電池スタック」、「酸化剤ガス」、「燃料ガス給排路」及び「酸化剤ガス給排路」に相当する。

したがって、本願請求項 1 に係る発明は、引用文献等 2 記載の発明と同一である。

また、引用文献等 2 記載の発明の「孔部 4 6」、「孔部 4 5」、「孔部 4 2」及び「孔部 4 1」は、それぞれ本願請求項 4 に係る発明の「燃料ガス供給口」、「燃料ガス排出口」、「酸化剤ガス供給口」及び「酸化剤ガス排出口」に相当し

、引用文献等2の【図1】、【図2】及び【図4】の記載から、前記「孔部46」、「孔部45」、「孔部42」及び「孔部41」は、縦長の長方形状であると認められる。

したがって、本願請求項4に係る発明は、引用文献等2記載の発明と同一である。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

#### 引用文献等一覧

1. 特願平11-69590号(特開2000-268843号)
2. 特願平11-48442号(特開2000-251902号)

#### 先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野           IPC第7版           H01M8/00-24

- ・参考文献 1. 特表2001-506399号公報  
2. 特開平11-185778号公報

連絡先 特許審査第三部金属電気化学           山内 達人(審査官補)  
(電話) 03-3581-1101   内線 3435